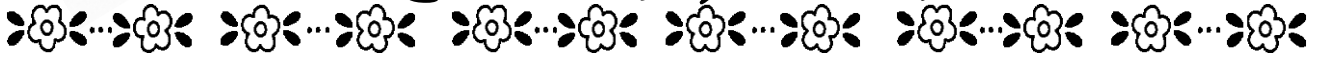


学校教育目標『つながる 続ける 創り出す』

令和6年6月22日

横浜市立三ツ境小学校

三ツ境小だより 7月号



「子どもたちの輝き」

校長 飯田 雅人

「全力ジャンプ 三ツ境」のスローガンのもと、6月1日のスポーツフェスティバルへの取組一色になっていました。スポーツフェスティバル当日には、学校運営協議会の委員の皆様や保護者の皆様に多数ご参観いただき、そして子どもたちが本気になって演技や競技に取り組む姿に温かいご声援をいただき、ありがとうございました。日々の練習や準備を積み重ねた成果を十分に発揮し、子どもたちは輝いていました。たとえ満足のいく結果が得られなくても努力を積み重ねたこと、最後まで本気の力を出し切り、ねばり強くがんばったこと、その過程を価値付け、励ましていただいた結果、子どもたちの自信に満ちた輝きを見ることができたのではないかと思います。今までの各ご家庭での子どもたちへの声掛けに重ねて感謝申し上げます。

さて、練習の中でのある日、こんなことがありました。私は、休み時間に子どもたちのリレーの練習や応援団の練習の様子を校庭で見っていました。すると私の隣にいたある女の子が、「校長先生がこうやって見てくれていると、みんなもきっと頑張ることができるね。」と話しかけてきたのです。私にとってうれしかった言葉であるのは言うまでもないことなのですが、子どもたちにとって誰かに応援してもらえる、または見ていてもらえると感じるものが、とてもうれしいことなのだなどあらためて認識すると同時に、これからも日頃から子どもたちを見守っていくことを大切にしていこうと実感した出来事でした。

「子どもたちの輝き」は、何もスポーツフェスティバルという大きな行事だけで見られるわけではありません。日々の学校生活や学習の中でもたくさん見られます。たとえば、教室での朝の会の中で、今月の歌を歌っている時の子どもたちの一生懸命な表情。その表情はとも輝いています。また、特別合唱クラブの子どもたちが、放課後練習の中で、音楽室で表情豊かに、そして生き生きと歌っている歌声。素敵な歌声が響く学校は、子どもの情操が育っている学校であると思います。またある時には、個別支援学級の子子どもたちが学校探検をしていた時に、2年生が1年生を上手にリードし、自信をもってその場所の説明をしていました。そのリードしている姿に感心すると同時に、やはり「子どもたちの輝き」を感じました。

まもなく7月になります。学校では、水泳学習や6年生の修学旅行、また夏休み明けにはそれぞれの学年で校外学習などの様々な学習や行事があります。子どもたちがどのような輝きを見せてくれるのか楽しみです。私たち教職員は、日頃の学習や生活の中で、体験的な場面を工夫してつくり出し、身に付けた知識や技能を今後の学習や生活に生きて働くようにするとともに、感動する気持ちを育て、感性を育むことができるよう努力していきたいと思っております。